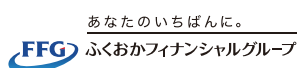


「長崎経済の発展のために。」



親和銀行

18Bank 十八銀行



ふくおかフィナンシャルグループ 社長 柴戸 隆成

本年4月1日、ふくおかフィナンシャルグループ（FFG）に、十八銀行が新たな仲間として加わり、4行体制で新たなステージに踏み出しました。基本合意の公表から3年以上を要しましたが、統合が実現できたのは多くの皆さまのご支援があったからこそと感謝申し上げます。

私どもFFGは2007年4月に福岡銀行と当時の熊本ファミリー銀行（現・熊本銀行）が経営統合し、金融持株会社として誕生しました。その後、親和銀行も加わり、グループ銀行がそれぞれの地域で永年築き上げてきたお客さまとの信頼関係やブランドを活かし、地元に着した営業を展開しております。一方、グループ内で各種インフラや専門機能などを共有しながら、FFGがグループ全体の経営戦略に基づいて、お客さまの多様なニーズにお応えする商品・サービスを企画し、経営資源を適切に配分することにより、サービス品質の高度化と業務運営の効率化を同時に実現しております。

2020年10月1日には、十八銀行と親和銀行が合併し十八親和銀行が誕生いたします。合併により更なる効率化を進め、経営体力を高めることで、「将来にわたり長崎経済の発展に貢献する」という経営統合の目的を果たしてまいります。

また、異業種の参入、お客さまのニーズの多様化など、地域金融機関を取り巻く環境は急速に変化していますが、デジタル技術を有効に活用しながら、コンサルティング力や人財力、関連会社を含めたグループ総合力といったFFGの強みを更に強化し、お客さま本位の営業を実践することで、地域に貢献し、地域とともに発展する“ザ・ベストリージョナルバンク”の実現を目指します。

今後ともなお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



十八銀行 頭取 森 拓二郎

私たち十八銀行は明治10年の創立以来、地域の発展とともに歩んでまいりました。この4月からはふくおかフィナンシャルグループの一員として、新たなステージへの第一歩を踏み出します。

今後は、2020年10月に親和銀行との合併、2021年1月にシステム統合を予定しており、これによって商品・サービスの統一が図られ、FFGのビジネスモデルである「シングルプラットフォーム」体制が整う予定です。効率的な本部体制の構築と重複する拠点の集約により、安定した経営基盤の確立と多くの人財の捻出を実現してまいります。

私たちの地元、長崎県が抱える課題の一つが人口減少です。多くの若者が他県で就職し、そのことが加速度的に高齢化社会の進展を招いています。この悪循環に歯止めをかけるためには、長崎県の魅力や文化、特産品等を県外・海外に発信し、長崎県全体で生産性を高めていく必要があります。統合シナジーによって捻出する人財を活用して、お取引先とのリレーションを深め、販路拡大や課題解決のソリューション提案により、お取引先の企業価値向上に資する取組みを積極的に行っていく予定です。また、新たに事業を始めるスタートアップ企業をサポートする取組みを強化する事も重要と考えています。「長崎県経済の活性化」という共通の目的に向かって、地域の皆さまと一緒に持続的な取組みを進めていきたいと考えています。

近年のデジタル化の潮流やAIの進展等、社会・ビジネスを取り巻く環境変化のサイクルは従来にも増して短期化しています。金融分野においてもフィンテック企業や異業種の参入により、競争環境や事業領域が大きく変わってきています。私たち地域金融機関としても、お取引先のニーズの変化に的確にお応えすることが求められています。これからも地域のお取引先から信頼いただける銀行、選ばれ続ける銀行を目指して一歩ずつ進んでまいります。引き続きご支援・ご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。



親和銀行 頭取 吉澤 俊介

2019年4月1日、FFGと十八銀行は経営統合し、グループ4行体制がスタートしました。この歴史的な日を迎えることができたのも、地域の皆さまのご支援とご理解があったからこそであり、役職員一同、心から感謝申し上げます。さらに2020年10月には親和銀行と十八銀行が合併して「十八親和銀行」が誕生します。

十八親和銀行が目指すのは、合併・統合シナジーを最大化し、FFGグループ総合力を発揮することで、長崎県経済の発展に貢献する「顧客満足度No.1銀行」です。

その早期実現の鍵となるのが「行員融和」だと思っています。これまでの文化・歴史は違いますが、お互い「長崎に貢献したい」という志で地元の銀行に入ったという目的は同じです。

これまでライバルとして切磋琢磨してきましたが、お互いその力を知っているだけに、仲間となればこれほど心強いものはありません。合併により経営基盤が安定し、両行がこれまで培ってきたノウハウを結集すれば、様々な面で地元のお客さまに還元できるはずです。それができる銀行の一員になれるということは、銀行員として最大の喜びであり、その目標に向かって一緒に汗をかくことで、融和は自然に進むと考えています。

1年半後、雲仙ツツジ色のコーポレートカラーのもと「十八親和銀行」は誕生します。県民の皆さまにとって「いちばん身近な」「いちばん頼れる」「いちばん先を行く」銀行として、早くこの色を、長年定着してきた親和の「緑」、十八の「青」に負けない馴染みのある色にしていきたいと考えています。そのためにもキャッチフレーズ「長崎に全力」の実践に邁進していく所存です。

どうかこれまでと変わらぬご支援とご愛顧を賜りますようお願いいたします。